

① 薬師堂 岡 穴戸家



穴戸東庵先生、医者をしていた穴戸家の薬師堂は地域の人々の健康を祈り祀られたのか、石の階段を登った中腹の静かな竹林の中にひっそりと建っている。

「雲晴れて つきいる田の薬師堂 もう吹く風ものりときくらん」4月15日の祭礼。雪の降ることもあったという。昔は甘酒進上の祭礼で有名だったと言う。

② 金沢屋蔵



改装前の全景



金沢屋さん裏の井戸

養蚕で栄えた金沢屋さんは、作田の稲荷神社建立、亀岡神社の白馬、石灯籠などを寄贈した。2022年建物の一部は取り壊されていますが、掛田の街並にはこのような蔵がたくさんあったと言う。金沢屋（大橋伊三郎）が天保時代に赤熟系の中の青引種から織度適度の繭が選出されたのが起源で、色沢佳良、織度細く軽目絹の原料に好適とされた。明治から大正に掛けて長く重用され繁盛した商店。

③ 安田家



安田利作（やすだりさく）

市町村：伊達市霊山町掛田

生没年：1847～1896

時代：江戸時代～明治

1847年に、掛田村の商家に生まれました。

利作の家は、まわりの村から生糸や絹を買い集めて、他の地方へ売ったり、蚕の種を作って売ったりする大きな店でした。利作は外国へも生糸を輸出しようとしたのですが、糸の取り方が不完全でうまくいきません。利作は何回も失敗しながらようやく「折り返し糸」をつくり出しました。

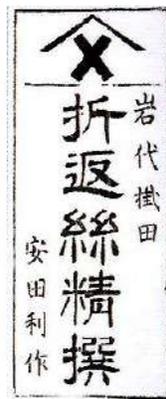
「掛田折り返し糸」と名づけて、外国にも輸出しました。さらにたくさんの人びとと力を合わせて、さまざまな展覧会にも生糸を出品しました。

第1回全国蚕糸共進会で、利作をはじめとして18名が入賞しました。

これにより、掛田はますます有名になりました。

利作は、その時その時の生糸の値段（ねだん）を調べるためにわざわざ横浜から「内外生糸商況日報」をとりよせていました。そして、いつ売れば高く売れるのかを研究していました。

利作が中心になって建てた「掛田養蚕伝習所」は、多くの人の協力で、全国のたくさんの人に養蚕の技術を教えました。



③ 安田家 (木戸と蔵)



以前は現在の掛田郵便局になっている大通りに面した場所に木戸がありました。
(現在移築した門)



安田家にはこのような蔵がいくつもありました。。

③ 安田家



奥州座繰りで糸を取る様子



当時の製糸工場内部

④

佐藤家



亀岡神社境内に建立

宮内庁入江相政元侍従長の書

- 川城屋久之助（佐藤久之助）は色々繭品種改良に取り組んでいた。
- 白繭品種「赤熟」天明年間（1780年頃）を育成し、明治時代白繭種流行の先駆者として明治25年まで広く重用されていた。
- 大柄な白繭で糸量も多く、虫質はあまり強健ではなかったが、養蚕家の多くの利益をもたらした。

参考資料：霊山史談5号

⑤ 拈華山三乗院



三乗院(さんじょういん)は天文元年(1532)に掛田川尻内佐藤宗家の初祖、瀬成田城主佐藤越中守信種公が開基し、後に川俣町飯坂、本寺頭陀寺(ずだじ)第七世鷲雄大鷲(がくゆうだいさく)禅師を勧請し開山とした禅寺です。寺籍は曹洞宗(そうとうしゅう)に属し、大本山は福井の永平寺(えいへいじ)と鶴見の總持寺(そうじじ)です。本尊は釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ)で脇侍に文殊菩薩(もんじゅぼさつ)と普賢菩薩(ふげんぼさつ)をまつります。

⑤ 三乗院山門



切妻造、銅板葺の四脚門。万延元年（1860）の再建当時は板葺きであった。扉と彫刻は慶応元年（1865）の造作である。彫刻は宇都宮の彫刻師「後藤源治」の作と伝えられる。雌雄の唐獅子があり「山形御用 鋳物師 荘司吉作」の銘がある。

伊達市指定有形文化財
昭和57年7月15日
伊達市教育委員会

⑤

三乗院 妙見堂



久之助の徳を偲び村人が建てた記念碑（三乗院境内）

妙見尊

養蚕赤塾を完成させた川城屋久之助翁

蚕種「川久赤塾」の創始者川久こと佐藤久之助は、幼少時より蚕業に熱心に取り組む姿は驚くべきものであった。佐藤家は代々養蚕を業として発展してきたが、7代正信から9代友信の代に一代発展を遂げ、豪農としての確固たる地位を築いた。

特に後世の養蚕経営に大きな影響を与えたと言われる名著「養蚕茶話記」「養蚕日誌」は久之助の祖父、9代友信の手による物

蚕種製造に成功を修めた久之助は育蚕の技術にも非常に優れていたため、教えを請うが為に、近隣、近郊の養蚕家の師弟が彼の門を叩き、久之助からの徳化を受けて多くの養蚕家を育成し、掛田が幕末から明治時代に養蚕、生糸で栄えた。

1783年（天明3年）生まれ1843年（天保14年）5月69歳 病気で亡くなりました。 < 霊山史談5号より抜粋 >

⑥ 掛田小学校



明治43年7月17日（1910）尋常高等小学校増築校舎落成



大正14年（1925）前面改築した校舎と新講堂落成

1972年（昭和47年）まで現在の霊山中央交流館の場所にあり、子どもたちの学び舎として、多くの卒業生を送り出しました。

掛田地区文化財現地調査から					
西暦	元号	区分等	文化財等名 他	地区名等	備考
1873	明治 6.4.15	小学校	掛田小学校三乗院に創設	西裏6	
1882	15.2.5	小学校	掛田小新校舎落成式	西裏19	
1885	18.4.1	同	山野川小学校を掛田小学校に合併	同	
1919	大正6.4	小学校	掛田小学校校旗新調	西裏	
1925	14	小学校	掛田小学校新校舎・講堂	西裏	
1931	昭和6.4	小学校	掛田小学校校歌制定	西裏	
1941	16.4.1		掛田国民学校と改称		
1945	20.8.15		(終戦)		
1947	22.4.1	小学校	掛田町立掛田小学校と改称	西裏	
1947	22.4.1	中学	掛田町立掛田中学校発足	百裏	新制中学発足
1950	25.3.	中学	掛田中学校新校舎完成・移転	下川原	
1973	48.11	小学校	創立100周年記念式典挙行		
1974	49.3	小学校	掛田小学校新校舎落成・移転	高ノ上	

⑦

岩喜呉服店



以前の店舗と門が移築されたもの

創業 天明元年（1781年）

初代はオザの農家の出。

現在高野喜七さんは8代目

現在の北側駐車場で白石から酒を仕入れて販売する家業でしたが、3代目以降「おざや」の呼び名で地域の方々に愛される呉服屋、岩喜呉服店を始めました。正月2日の初売りは、早朝花火の合図が町中に響き渡り、開店前から縁起物の福袋を買い求めるお客さんや、揃いのハッピー姿で接客する店員さんで大いに賑わいました。

春には小・中学校の制服を買い求める嬉しそうな親子の姿が見られました。

生地も色や柄も豊富に揃えられ、自分で服を作るお客さんには、布地の切り売り販売もしています。

お産が近づけば産着を、婚礼があれば結納一式や布団まで、又、二階では和服の展示販売会など、日常生活に必要な衣類は何でも揃い、多くのお客さんが訪れており現在も「おざや」の愛称で親しまれています。

⑧ 掛田郵便局

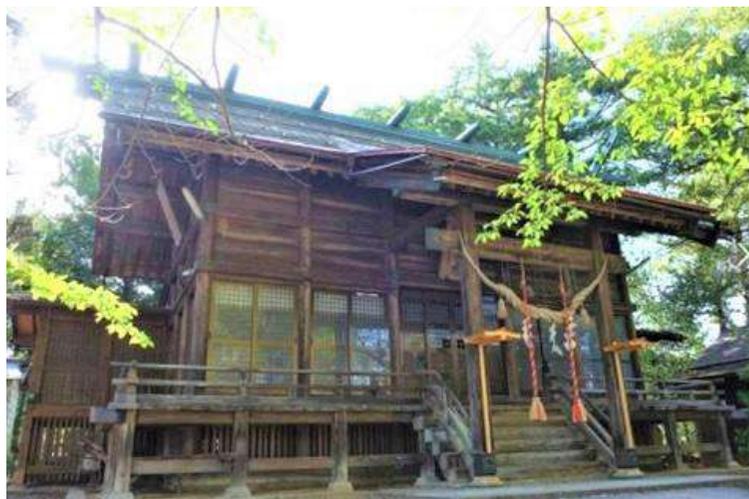


明治5年7月1日開設, 初めて通常郵便物
取り扱い開始。後25年7月1日小包郵便物
取り扱い開始 (霊山中央交流館入口)



現在の郵便局舎は生糸「かけだ折返し糸」
で世界に輸出していた生糸商「安田利作家」
の住宅跡地。

⑨ 亀岡神社

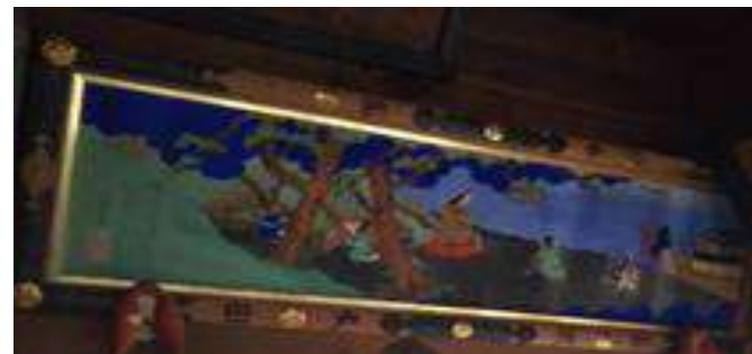


- **御祭神** 菅田別尊（ほんだわけのみこと）
- **鎮座地** 伊達市霊山町掛田字西裏2番地
- この神社は掛田市街地の西に鎮座しています。凛とした空気の張りつめた神域を持つ素敵な神社です。
- 由緒：永観2年(984)、修験僧・舟思大僧正尊海が、豊前国(福岡県)宇佐八幡宮の分霊を奉還し祭ったのが創祀とされます。
- 社名の由来は鎮座地の丘の形が亀の姿に似るところから付けられたようです。
- 文治年中(1185～89)、源義経が祈願に立ち寄り、佐藤継信・忠信に命じて社殿を造営したといわれ、建武2年(1335)には、南朝の忠臣懸田近江守定隆が懸田城にいた時、この社を祈願所とし社殿を奉献したといわれ、その子播磨の守定勝の代まで(應永6年・1399)この地を領し、社殿の修復等を行ったと伝えられています。
- 天正(1579～91)には、伊達氏がこの地を領しましたが崇敬篤く、仙台へ移った後もその地へ分霊を遷し奉祀したといわれます。慶長年中(1596～1614)、松平陸奥守の家臣中島兵庫が社殿を改造しましたが、元和年中(1615～23)、別当所の火災のため、古文書等もことごとく焼失してしまいました。享保13年(1728)から3年の歳月を費やして、本殿、拝殿、および鳥居などに至るまで改築したと伝えられます。現在の社殿は明治18年(1885)に造営されたもので、この時境内の建物(本殿、拝殿、神輿庫、額堂、馬舎、手水舎等)のほとんどが改築されました。
- 春と秋2度の例祭が執行され、秋の例祭には隔年ごとに神輿渡御祭が行われ、各種の神賑行事が町内の各所で催される。
- 祭日は5月4日秋季は10月第二土曜日神輿渡御があります

⑨ 亀岡神社



亀岡神社鳥居 天保6年建立、老朽化により
平成8年5月 建て替えられました。



⑬

金胎大神 (大橋家氏神様)



御祭神 金胎大神

鎮座地 伊達市霊山町掛田字北町10番地
(大橋久一宅敷地内)

亀岡神社は昔より神仏混合の信仰を集めていましたが、明治維新の大改革により、明治政府は神仏を別々に祭祀するように命令しました。

早速氏子総代7名が協議して政府の命令に従うこととなりました。

当時は各地に法印と呼ばれる責任者がいましたが、亀岡正八幡宮（八幡大菩薩）を、神社として祭祀し宮司職を置き、現在の法印別当を辞めさせました。法印別当を解雇されたことに立腹して総代7名を恨み法印死後「必ずおまえらの家をたたないように（倒産）させてやる」と言って間もなく亡くなりました。

その後3人の氏子総代の家が潰れました。

掛田の旧家大橋家でも色々な災難が続いた事で、怨みを除けて貰う様に金胎大神を祀り祠等が建立されています。

⑭ 防空壕跡 (薬研坂)



崩落した防空壕

太平洋戦争時、本土決戦を覚悟して各地に防空壕が造られた。平成初期頃までは南北に穴があり、トンネルのような造りであった。子供達が入りし、危ないので山から切り出した木々を積み上げ薪の保管庫としていました。

⑮ 清水 (薬研坂)



町の東山添いは特に清水が多い、どこでも冷たい水を腹いっぱい染み込ませる。特に清水内の清水は有名で遠方から年寄りが水を汲みに来る場所で、この水で朝茶を飲むと格別な味がするという。今回の調査2021年まで少しではあるが水が湧き出していた。昔はコンコンと水が湧き出て地域の皆さんの助けになっていたこととされます。清水はこの地域の地名「清水内」にもなっている。

①⑥ 天神社 (菅原道真公)



天神社の礎石のみが残されている。



参拝する時の、手水鉢で長い年月を経て木の成長で起こされたと思われる。

菅原(天)神社 (天神森に鎮座す) 菅原道真公を祀る 氏子13戸 郷土史2 p 1 1
茶臼山山頂北斜面にあり、学問の神様と言うことで受験前には、朝天神様にお参りしてから試験に臨んだ学生も多いと聞きます。

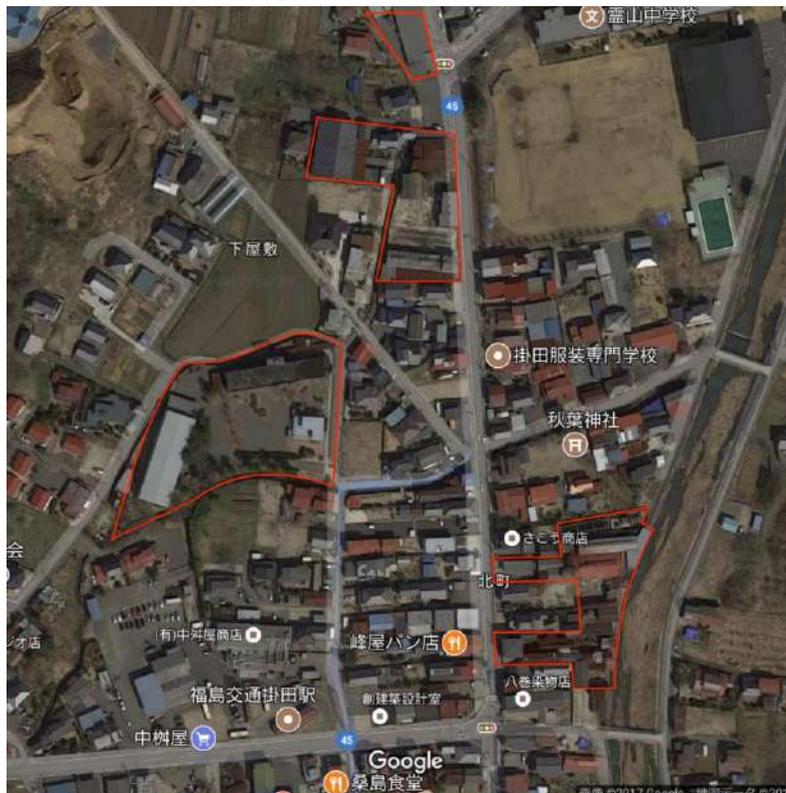
①7

秋葉神社 (火の神様)

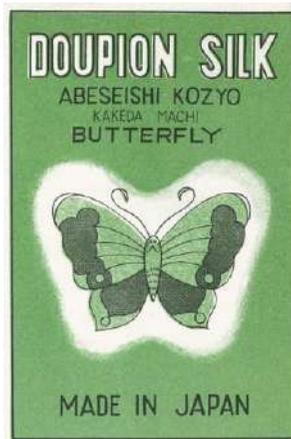


- 御祭神 軻遇突智命
稚日女命
- 鎮新座地 掛田字北町38
- 本社は天竜川と支流気田川の山稜南端秋葉の山頂火の神
- 祭神名 軻遇突智命 (かぐつちのみこと) 稚日女命 (わかひるめのみこと) の2神を合祀る
- 応永8年懸田城 懸田播磨守定勝の代, 明正寺に建立致せるを城主滅亡後、里人が遷移し相殿に祭置
- 社殿 現社殿は明治年間の再建だが、朱塗りの隨身は江戸中期の建立です。
- 祭礼の絹市、大市は全国の生糸取引の標準価格となる程賑わいとなり、養蚕農家の信仰を集めた神社でもあります。
- 祭日7月28日

⑱ 阿部製糸(株)



阿部製糸(株)工場等 最盛期時敷地 赤線部分



沿革		
大正	3年(1914)	創業
昭和	26年(1951) 11月	阿部玉糸株式会社設立 (資本金95万円)
	28年(1953) 6月	増資 285万円 (資本金390万円)
	29年(1954)	阿部製糸株式会社に商号変更
		10月 増資 115万円 (資本金495万円)
	35年(1960) 9月	石蔵新築 (簿価5,592,348円)
		10月 相馬市中村に相馬出張所を開設
	39年(1964) 4月	宮城県本吉郡志津川町に志津川出張所を開設
	53年(1978) 2月	増資 1485万円 (資本金1980万円)
	54年(1979) 11月	売上高が60億円を超える
平成	9年(1997) 5月	製糸業廃業
	10年(1998) 1月	出資子会社
		日本絹糸貿易株式会社を吸収合併
		(資本金2080万円)

⑱ 阿部製糸(株)



女子寮



繭格納庫



阿部製糸は大正3年「阿部玉糸工場」として創業され、昭和10年動力化されて近代化し、最盛期には従業員120名を超えた。石蔵は繭格納庫として、近隣には見られない大規模なものである。

18

阿部製糸(株) 製造工程



①生繭を乾燥機に投入



②乾燥仕上がり・コンベアで袋詰め機へ



③選繭



④煮繭 (煮繭機から水流で綿糸機に運ぶ)



⑤綿糸 (日産HR2型綿糸機)



⑥再繰 (揚げ返し)

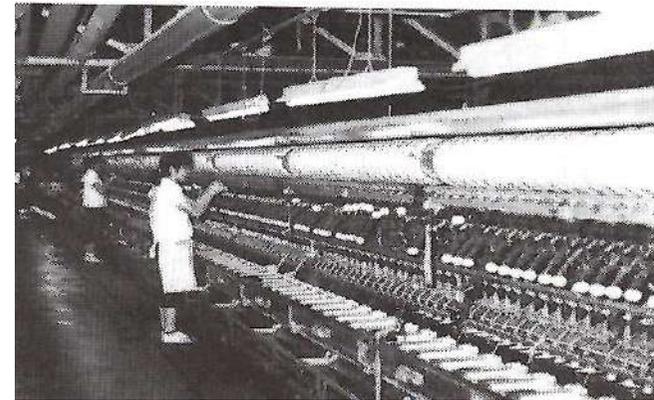


⑦仕上げ



⑧製品

- 玉繭を製糸していた。(シャンタン織りと言う特殊な織物の原糸も製造していた。)



工場内 作業風景

①9

大手橋公園道路竣工記念碑



昭和 8年竣工

構造：R C ラーメン 橋

(片持梁を有する固定端門形ラーメン)

RC造とは、「鉄筋コンクリート造 (Reinforced Concrete)」のことを指します。

実際に鉄筋コンクリートを造るときは、はじめに鉄筋を組みその周りに型枠をします。そこにコンクリートを流し込み固めることで、ただのコンクリートではなく、鉄筋が内部に配筋されている「鉄筋コンクリート」になるのです。

ラーメン構造とは、柱と梁で骨組みを作ったものです。名前の由来は「Rahmen (ラーメン)」というドイツ語で「額縁」という意味になります。柱と梁を組み合わせて、マンションの形をつくっていくというイメージになります。

②0 霊山町憲章碑 (霊山中央交流館敷地内)



- **町民憲章：昭和60年(1985年)3月16日制定**
- わたくしたちは、古い歴史と美しい自然に恵まれた人情豊かな霊山町民です。
平和で住みよい躍進する町をつくるためこの町民憲章を定めます。

【本文】

- 教養を高め、うるおいのあるまちをつくりましょう。
- 健康で楽しく働き、活力のあるまちをつくりましょう。
- たがいに助け合い、思いやりのあるまちをつくりましょう。
- きまりを守り、明るいまちをつくりましょう。
- 自然を大切に、きれいなまちをつくりましょう。